

メッセージ通りに記載されていた道具は全て揃えた六花ちゃん
後は紋章に純血の血を注ぐだけ
中二病心をくすぐるようなパイプでなんとか処女の血を手に入れようとするが…

純潔の血…
それを注ぐことが出来れば
私の邪王真眼がさらに…





こうやって無理矢理
入れる感じにすれば……!

えへへ……

そ、そうだ

ひ

らっ

ふ

ふ

ズイッ……



わっ!!

.....

わっ
わっ
わっ

わっ

わっ

わっ
わっ

わっ

わっ
わっ
わっ

わっ

わっ



ん？！？

カ

ん

ん

ん



ここは…私の
パニッシュメント・デイズ・ワールドに
似ている…

まろ

まろ



でも服は制服のまま...
それにこの感覚...
いつもと全然違う...!!!



この共鳴感...ふふ...
どうやら私は本当に手に入れたようだ...

グッ

ニヤ



ドドドド

邪王真眼の使い手よ
よくぞここに辿り着いた

な…何奴…!
今の私よりも圧倒的な力を
保有している…!!





ひび

試練……？

この世の神である
ゴッド・オブ・マスター……
君に試練を与えよう



しん!

ということとは
私はまだ半人前なのか…

君はまだ本当の能力を開化していない
真の能力所持者は私のように
さらに魔力が漲り
様々な現象を創造することが可能なのだ

この世界で
私に挑むほど強くなれば良い

様々な障害があるが
様々な人物達との戦いに勝ち
暗黒の魔力を補給するのだ

なるほど…



きりん

きりん

了解した...
ゴツド・オブ・マスターよ

すもも...
ぞぞ

...

時間は現実世界とリンクしている
戻りたければ眼帯をつけなければ良い。
再びこの世界へと入りたければ純潔から出た
体液を注ぎ込めば良いのだ





(大体わかった…
ひとまず元の世界へと戻ろう…)

ん…？

き、消えた…!!

では幸運を祈るぞ

とろっ

ぞろっ

ぴん

ぞろ

ぞろ

ぞろ

くっ…油断していた!

…もうすでに戦いは
始まっていたというのか…!



離せ!

私が本気を出せば
触手バコときこー!

ふる

はっ

はっ

はっ

きし

きし

きん

はた

はた

きん

ぬい
ん
ん

きん





んぽんぽん!

口に触手が...!!
これでは詠唱が出来ない!

ん!

ん!

んぽんぽん!

んぽんぽん!

んぽんぽん!

んぽんぽん!

んぽんぽん!

んぽんぽん!

んぽんぽん!



んっ!?

触手の体液が...!?

んっ!

んっ!
んっ!
んっ!

んっ!

んっ!

んっ!

んっ!

んっ!

んっ!

んっ!

んっ!



ん!

んぐんぐん...

んぐ

んぐ

んぐん んぐん

んぐん

んぐん

んぐん

んぐん んぐん んぐん

んぐん

敵ながら今の私に
攻撃してくるとは...
でもこれなら詠唱が出来る...!



いぎいぎ!

なっ：何か
引っ張られてる!?

いぎいぎ!

いぎいぎ

いぎいぎ

いぎいぎ

いぎいぎ

いぎいぎ

いぎいぎ

いぎいぎ

いぎいぎ

わ、私の魔力を…!!

ひっぱられてるう!





うう?...
今度は油断しない!...



たしか純血が
元に出た液体で
また魔方阵が
反応するといつてたはず…



自分の体をいじくるとは…
でもこれもなかなかか…



んんん…





Acid

fufufu

fufufu

fufufu

fufufu

あ、あれ…
少し気持ちいいかも…

はぁ

はぁ

ziko

ziko

ziko

fufufu

fufufu





これで異次元の
世界へといける…

いざ…



くっ…まさか
この私が負けるとは…

俺は下町では
有名なタトゥー使い！
なかなかデキるお譲ちゃん
だったがまだまだだな！

異世界に何度か訪れるようになった六花ちゃん、
最初に襲ってきた触手ぐらいでは
負けないぐらいにはなっていたが…



んんー名前は
六花ちゃんか
たっぷりかわいがって
やらんとなあ

うっ...

くっ...眼帯を
奪い返さないで...

ぐっ

ぐちゅ

ぐわん

びゅ



大抵の女は子宮から
出る分泌液が
魔力の源だからな
沢山頂くとしよう

わっ…
私の魔力を奪うな!

れろお

むきっ

キーン!!

キーン!!

びびり!!

びびり!!

す…吸い取られる…

う…う…う…

おっ美味しい！
これで魔力も
頂けるなんて一石二鳥だ

ちかちか

ゴク
ゴク

ゴク

ゴク

はあ

は

びく

びく

びく

どんどん私の体の
生命エネルギーが
低下していく……!!

んしゃっ!

いい潮吹きじゃないか
魔力を沢山持つてる証拠だねえ♪





んん〜

仕方ない
それなら六花ちゃんにも
俺の魔力をお裾分け
してあげよう

う...

はっ

はっ

んん

んん

んん

んん

れちん...



びんびん

びんびん

びんびん

びんびん

す…吸い取るって…

いんっ!

さ、どンドン
吸い取っていいぞお

ぽろんっ

ん？知らないのか？
女は俗に言う愛液、
男は精液を奪うと
能力アップするんだぞ

アホ...!

モンスターを倒すというのも手だが、
手っ取り早く能力アップするなら
異性を倒してたり性行為したほうが
魔力を補充できるぞ



ほれっ
ということ
俺の魔力をやるから
気持ちよくさせな!

んっ!

そういう手も
あつたのか...
それなら奪われた
何倍の量を...!

グッ
グッ

はっ
はっ

グッ
グッ





なんて変な味…
けど私の邪王真眼が
覚醒するためなら…!!

おっ、いいねえ
こりやあすぐ
奪われちゃうなあ

んぐうっ

んかっ

ん。

んぐうっ
んぐうっ
んぐうっ

んぐうっ
んぐうっ
んぐうっ

んぐうっ
んぐうっ

んぐうっ
んぐうっ

す…凄い…
この男の人から得た魔力が
私と共鳴しているのか…!?

仕方ない、かわいいから
もつと魔力を摂取する方法を
今から教えてあげよう

どうだ？
体中にみなぎるだろうか？

ぴんぽん…

ひゅん

くわん

はっ

はっ

はっ

ひゅん

あつぽんぬ

簡単な話、
魔力が眠っている子宮に
精液を注ぎ込むと
一番魔力アップに繋がるのさ

ま、まさか
それを私の体内に
挿入するつもりじゃ…

ズツ

ググ

ぐぐ

ぐぐ

ぐぐ

ぐぐ



いいねえ、
生娘みたいな女は
これだからたまらん

い…痛いっ…!!



ふはは！
大分イイ感じにキマって
来たんじゃないかあ？

んはあ...

これが性行為...
悔しいけどけっこう
気持ちいいかもしれない...

三十分後

ほら、おねだりしたら
魔力の源を
子宮に注いであげるよ？

あまりこういうことは
したくないけど...



イクー！これが真の
魔力注入だ！

あーっ！

びびっ

す…凄…
さつきよりも激しく
私の体に共鳴している…

びびるっ！



なっ？あっ！っ！しまっ！！

ズズズ...

(今なら反撃できる！)
ふふふ、油断したな...!!
さらばだ、アドバイスマスター!!

こうして下町のおじさんを撃退し、
元の世界へと戻る六花ちゃんであった



んう…なんか手じや
物足りなくなってきた…

7

十日後
異世界ではバトルドレスにも変身できるようになり
ストーリー的には中盤まで上り詰めていると思っている六花ちゃん

今ならこのパイプも...
私を快樂へと導いて
くれるのではないか...



びびっ

びびっ
びびっ
びびっ

びびっ!?

びびっ!

間違っ
て回転
ボタンを
押して
しまっ
たっ!

びびっ

びびっ

びびっ

びびっ
びびっ

びびっ
びびっ
びびっ

びびっ
びびっ





結構クセになる
かもしれない...

うっせー...

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

見事苦し紛れに
戦闘に勝利した六花ちゃん！

なかなか強かったぞ
光と闇を操る
ライトオブダークネスよ…
さて貴様の魔力を…

ぐり…





ゲ
オ
オ
オ
オ
オ
!!

ゲ
ゲ
...

ゲ

ゲ
ゲ
ゲ

!?
「...これはまさか!」



ククク!
オレヲヨクゾ
カイホウシタナ!

くっ！闇の力を引出して
いないと思つていたら…
闇の生命エネルギーを
目覚めさせてしまったのか…!!

ギョッ

ギョッ

びび

ギョッ

びび



女ノ体ヲ
弄ブノハ久々ダ!

クゥ
クゥ

クゥ!

クゥ!

クゥ!

んっ!
!?

クゥ!

クゥ!

クゥ!

一気二挿入!

ヒキッ!

ヒキッ!

いきなり!!

キッ

ヒキッ

ヒキッ

ヒキッ

ヒキッ



久々ニコノ暖カイ感覚ダ
気ヲ失ウマデヤツテヤル!

んんん!

んんん!

ヒッパ!

ヒッパ!

ヒッパ!

ヒッパ!

ヒッパ!

ヒッパ!

ヒッパ!

ヒッパ!





む、無理！
無理だよおー！

モウ少シデ
イケルゾオオ！

グググ

めい

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ



んきー!!

んきー!!

んきー!!

無理矢理
お願いされるっ!!

ガッ!!

オラア! マダマダ
ヨレカラダア!

と!!

ガッ!!

んきー!!

んきー!!

んきー!!

ククク、マダマダ
コレカラガ本番ダゾ

魔力を散々奪われて
私の体が動かない…

ぐう…

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ



貴様ニハ我ノ触手ヲ
孕ンデモラウゾ

えっ?!



マズハ、下準備カラダ



「うわっ!」

「ん!」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

フハハ!
タップリ楽シムガイイ

ハァ?!

がほ



クハハハ!
ドウダ! 喉奥ヲ貫ク
触手ニ犯サレル気分ハ!



サア、ココカラガ
楽シイ時間ダ

ムシムシ

なつ…なんて
禍々しい触手が…



同時二女ヲ強制的ニ
ヨガラセル効果ヲ持ツ
液体ヲ放ツ!



ん
い
う
う
う
う
!!

ホ
ッ
ッ
ッ

ホ
ッ
ッ
ッ

ホ
ッ
ッ
ッ

ホ
ッ
ッ
ッ

ホ
ッ
ッ
ッ

フハハハ、イイ顔ダ
サテ後ハ触手ヲ
産ンデモラウゾ

ガク

ガク

ガク

ガク

んっべー...

んっべー

んっべー

んっべー

んっべー

んっべー

ガク

どほっ

ガク



サア、我ノ能力ヲ
底上ゲスル
触手ヲ産ムガイイ!

うう…私の魔力で
お腹の中にある卵の触手が
どんどん育つていく…





うっ！
お腹が苦しいよお！

うっ！

うっ！

うっ！

うっ！

うっ！

うっ！

うっ！

うっ！

うっ！

サア、ソロソロ
降臨スル時ゾ!

ん…んん…
本当に触手の赤ちやん
産まれるう…!!



褒美ダ、少シハ我ノ
闇ノエネルギーヲ
吸収出来タダロウ！

うひあ…
体内で闇の力を
感じるう…



闇の力を少しながら得られた六花は以前より強くなり、異性を見つけては倒して魔力を奪うことを繰り返し続けていた。次第に魔力を得るために必要な男性の精液・体液にも興味を持つようになり、いつの間にか邪王真眼の覚醒よりも性欲を満たす為に魔力を奪うような状況になる。そのせいか戦うこともせず異性を見つけては性行為をし始めるようになった。

ああーこの感覚……
私の魔力と貴様の魔力が
共鳴しているう……



いいねーエツチな
六花ちゃんかわいいよお

ちっちがっ……
私は魔力がほしくてえ……

ほらほら俺の体液と
六花ちゃんの
体液交換しようね

ん？！

ん？！
むち。

ん？！

ん？！



は、早くほしい…
あの感覚が…!

そーれ、そろそろ俺の魔力で
さらに強化してあげるよ!



ああ…凄い感覚…
病み付きになってしまう…

おおっ
搾り取られちゃうよ
そんなことしたら



も、もちろんう…

君ならこの世界の
神になれるさ
邪王真眼の覚醒のため
どんどん体張ってね





私はゴッド・オブ・マスターだ
しかし脅威な力だ
この私が少々手こずるとはな

うう…本気の私が負けるとは…
さすが創世の神ということか…

遂に合間見えることになった
この世界の創造者との戦い
しかし自身の力を最大限に引出したが
敗北してしまった



ふむ、しかし貴様なら
邪王真眼の前に
アレが覚醒できそうだ

なっなにを……!!

やっ

びっ

びっ

ゴッゴッゴッ



う... うんちが
ぐちゃぐちゃと
されてる...

うん!

うん

うん

うん

うん

うん

さらに特別な魔力を
注入してやろう

うあつ...す...すさまじい
魔力の根源を感じる...!!



あつー！すごいっ！
私の体内にどンドン
漲っていくう！！

Incontinence
Energy !!



よし、これで完成だ

くちゅーん...

ちゅーん♡



さて、さらに魔力を
得るために精進し続けるのだな、
いつか私を超えられる日が来るといい

体が燃えるぐらい熱い…



錬金術を操るボクを選ぶとは
いいセンスだよ、
たしか六花ちゃんって
リアルでは初めてなんだよね？

いっ、いっ、いっ……

もい

もい

元の世界へと戻り創造主から得られた魔力のせいか
頭の中は完全に魔力供給のことしか考えられなくなった六花ちゃん
しかし魔力というよりも性欲を満たすという考えに頭が回ってしまふ
そして異世界で敵わなかった男性に、
リアルで会えば更に魔力を沢山補給との約束を信じて家へと招き入れる

あつちの世界なら
もっと攻撃的なのに
リアルだとハムスターみたいで
かわいいなあ

あ、あつち

こつちの世界だと
どうしても緊張する...



よし、そろそろ
ボクのチンコを挿入するよ

いつのまに...

いつもと違う感覚に
感おされてしまっ...

びっ

びっ

びっ

くちゅ

ぬっ
ぬっ
ぬっ

ん

ん

むに

むに

むに

ちゅ



おお、六花ちゃんのお腹内あったかいよ

あーっ……

遂に私は現実でもセックスしている……魔力は補給できないのに……

オビキア

びく!

びく

びく

びく

びく

びく

むに

ぬる



早速感じちやつてるのかな？
オマンコの締め付けが凄くいいよ

この感覚…
あつちよりも
凄いい感じ！



ん？これはこれは
凄いモノ持つてるね

あつ、そ、
それは私の…

びびり

びびり

びびり

かああ

びびり

びびり

びびり

びびり

びびり

びびり

びびり

びびり

びびり

びびり

びびり

びびり





これはお尻に挿入だ！
ずぶずぶ入ってくよ、どう？

ひっ！どんどん
入っていく！

びっ！

びっ！

びっ！
びっ！
びっ！

びっ！
びっ！
びっ！

びっ！

びっ！

びっ！
びっ！

びっ！
びっ！
びっ！

びっ！



いい表情だねー、
六花ちゃんいい表情だよー

うう…全ては
魔力のために
してるだけであ…♡

びしょ
はっぴん
はっぴん
はっぴん

びしょ
はっぴん
はっぴん
はっぴん
はっぴん
はっぴん
はっぴん
はっぴん



うっ!ダメだ!
膣内に射精だ!

ひゃっ!?!

びんびん!

びんびん!

びんびん

びんびん

びんびん!!
びんびん!!
びんびん!!

はちやん



びんびん

今度ボクと同じぐらいの
能力使いがいるんだけど
どうかな？

えっ…あ、うん
お願いします…

うん
うん

はあ
はあ

はあ
はあ

はあ

はあ
はあ



自ら腰あげて求めてる
六花ちゃんかわいい！
水着姿も抜群だ！

ふふ…私のセンスに
魅入られたか…

ほあ

ほあ

ぐっ…

ほほーお前のクセに
いい女連れてきたな

その後季節も丁度いい頃合で男二人と海に行くことになった六花ちゃん
以前では絶対にありえないことだが今の彼女はどんどん性欲と魔力で頭がいっぱい
魔力のためならどんな手段も選ばなくなっていった

さらなる高みへと
上らせるためにも
現実世界でどんどん信者を
取り組む努力をしような

その通り、
ゴッドオブマスターを
超えるのは六花ちゃんしか
いないさ

そうね...私は
この邪王真眼と共に
境地へと...



やはりリアルで
セックスするのが
一番だなあ

あっ……♡
いきなり激しいよあ……♡

びくっ

んん

びん

んんん
んんん



おっと、もう射精しちゃった
これも共鳴させるためだよ
六花ちゃん

そ、そうね…現実でも
どんどん体を共鳴させて…



さて、ボクは
こつちの穴に
いれようかな

お、お尻の穴に……？



おおーどんどん
溢れてくるね

あうっ♡
子宮に入ってる精液が♡



どうだろこの感覚も
病み付きになるだろう

んごっ！お、
奥に入りすぎい！

んい

んい

んい

んい

んい

んい

んい

んい

んい

んい

んい

んい



よく頑張ったねえ
俺達も限界だから
引き分けって感じかな

…も、もうさすがに
私の魔力消費で体力が…



そしてあれから一月先以上が過ぎ…
創造者を倒していないのにいつの間にかこの世界の支配者となった六花ちゃん
しかし男達に日々弄ばれる存在でもなってしまった
性欲が強すぎる六花は別に気にすることもなく
邪王真眼はまだ覚醒していないため逆に嬉しい気持ちになってしまうほどであった

邪王神眼の使い手、
六花ちゃんに種付け！



んひやあーん
また種付けされたあ

うっほー、もう膣内が
凄いくちやぐちやだよ！

ズッ
パツッ

んぎい...
かき回されて
いるう...♡





俺は喉マンコを
堪能するぞー

おっ、締まりが
凄いぞ！

たはほん
たはほん
たはほん

ざりざりした
感覚たまらん！

たはほん
たはほん
たはほん
たはほん
たはほん
たはほん
たはほん
たはほん
たはほん
たはほん

たはほん
たはほん
たはほん
たはほん
たはほん
たはほん
たはほん
たはほん
たはほん
たはほん

たはほん

たはほん



イクぞ
同時射精だツ!!



ふうー完全に
搾り取られたなあ

ぬる...
ぬる...

いやあー、
こんな口内の奥に
射精したのは初めてだ

ぬる...
んま...
んま...
んま...



ふー俺は
満足したぞお

ぶはっ☆

俺はまだ
イケるかな







最高ではないか!
これからはどんどん
新人を集めていこう

私がネットで製作したこの世界で
男達からは内容を説明して金を貰い、
そして中二病を患っている子には
能力開化のチャンスを与える



んへんてんてん

こうして六花ちゃんの邪王真眼は別な形で覚醒してしまった
種付け地獄を快楽として味わう六花ちゃんは気づきもしないこの世界の真実であった
ただ六花ちゃんの望んでいる魔力はしっかり補給されているため、
これはこれで良かったのかもしれない
この世界限定だけですが...